



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年11月5日

上場会社名 株式会社中京医薬品 上場取引所 東
 コード番号 4558 URL <http://www.chukyoiyakuhin.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米津 秀二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレート本部長 (氏名) 飯田 亨 TEL 0569-29-0202
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年12月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の業績（2020年4月1日～2020年9月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	2,990	23.9	129	—	134	—	62	—
2020年3月期第2四半期	2,414	△5.0	△75	—	△69	—	△91	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	7.37	7.18
2020年3月期第2四半期	△10.87	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	4,803	1,906	39.6	221.08
2020年3月期	4,424	1,796	40.6	212.77

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 1,906百万円 2020年3月期 1,796百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
2021年3月期	—	2.50	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2021年3月期の業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,800	12.3	230	223.9	240	179.1	100	900.0	11.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

業績予想の修正につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2021年3月期2 Q	11,660,734株	2020年3月期	11,660,734株
2021年3月期2 Q	3,039,233株	2020年3月期	3,218,779株
2021年3月期2 Q	8,465,876株	2020年3月期2 Q	8,408,311株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、国内外における新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じつつ、経済活動のレベルを段階的に引き上げていく中で、回復の兆しがみられるものの、依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

当社を取り巻く事業環境においては高齢化や健康志向の高まりにより健康関連商品から化粧品、家庭用品市場までドラッグストア等の実店舗はもとより、通信販売企業をはじめ、メーカー、流通系企業等の参入もあり市場の競争が激化しています。また、お客さまにおいても健康意識の高揚と情報の高度化により、安全・安心はもとより商品・サービスに対する要望も多様化し、企業と商品の選別が厳しさを増してきています。

このような環境の中で、当社は企業理念として掲げる「健康づくり、幸福づくり、人づくり」の具現化に向けて、お客さまの生活を支えるための商品や情報・サービスを多角的・多面的に拡充するトータルライフ・ケアを推進してまいりました。そして、更なる成長と企業価値向上を目指し、基盤事業の選択と集中による収益性の向上に努めることで、目標の達成や強い企業体質を作るために邁進してまいりました。

また少子高齢化に伴う労働人口の減少や国の政策である「働き方改革」の施行により、営業人員の積極的な採用はもとより、業務効率や勤務形態の改善を図りました。そのためITを活用した営業サポートや教育、コミュニケーションツール等を強化し一人当たりの生産性の向上に努めました。

その結果、当第2四半期における売上高は2,990百万円(前年同期比23.9%増)、営業利益は129百万円(前年同期は営業損失75百万円)、経常利益は134百万円(前年同期は経常損失69百万円)、四半期純利益は62百万円(前年同期は四半期純損失91百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①家庭医薬品等販売事業(小売部門・卸売部門)

小売部門においては、中期経営計画にある「事業基盤の強化」として配置薬などを委託強化することにより営業人員で左右されない顧客主導型の安定した販売による収益基盤の確立や全顧客への新規販売と継続的な販売に取り組まれました。「成長戦略」においてもお客さまがより長く元気に暮らすための「健康寿命」を延ばすためにITを活用した営業サポートや教育、新商品の開発強化に取り組まれました。また全国の営業社員の担当地域の見直しと直行・直帰の導入により営業効率並びに営業時間の確保を図りました。新型コロナウイルス感染症においては、現時点では厳重な対策を実施した上で事業活動は継続しており、平常時と同水準の稼働率を維持しております。また改めてお客さまが3密を避けるために置き薬の利便性が見直され必要性が高まりました。そのため営業社員が健康関連商品から日用品、食品などを定期的な訪問を行うことによりお客さまの様々なニーズにお応えする商品をお届けすることが出来ました。

卸売部門の売上高につきましては、「事業基盤の強化」として年間定番商品や季節定番商品の安定供給に取り組まれました。今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響による感染症予防に対する意識の高まり、マスクの需要により夏季用の接触冷感「クールフィットマスク」などの除菌消臭関連商品の販売は好調に推移しました。

その結果、売上高は2,607百万円(前年同期比23.7%増)、セグメント利益74百万円(前年同期はセグメント損失92百万円)となりました。

②売水事業部門

昨今の健康志向ブームによる飲料水へのこだわりと、拡大するミネラルウォーター宅配市場の成長性、更に防災対策としての水の備蓄や熱中症対策としての水の必要性等により、早期に中核事業の1つとして確立することを目指しております。「事業基盤の強化」として抗菌カートリッジやサーバーメンテナンスにより安全性の強化を図りました。また、今期より除菌用アルコール製品の製造を開始し、今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響による感染症予防に対する意識の高まりにより、販売は堅調に推移しました。

その結果、売上高は381百万円(前年同期比25.3%増)、セグメント利益54百万円(前年同期比235.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は2,461百万円となり、前事業年度末に比べ373百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金の増加249百万円、現金及び預金の増加112百万円によるものであります。固定資産は2,341百万円となり、前事業年度末に比べ4百万円増加いたしました。

この結果、総資産は4,803百万円となり、前事業年度末に比べ378百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は2,134百万円となり、前事業年度末に比べ218百万円増加いたしました。これは主に支払手形及び買掛金の増加131百万円、未払法人税等の増加66百万円によるものであります。固定負債は763百万円となり、前事業年度末に比べ49百万円増加いたしました。これは主に長期借入金の増加54百万円によるものであります。

この結果、負債合計は、2,897百万円となり、前事業年度末に比べ268百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は1,906百万円となり、前事業年度末に比べ109百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金の増加40百万円、自己株式の減少53百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は39.6%（前事業年度末は40.6%）、1株当たり純資産額は221.08円（前事業年度末は212.77円）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	673,300	786,203
受取手形及び売掛金	449,969	699,691
商品及び製品	477,098	453,594
委託商品	376,167	377,673
仕掛品	105	90
原材料及び貯蔵品	22,774	29,850
その他	94,090	123,107
貸倒引当金	△5,505	△8,406
流動資産合計	2,088,001	2,461,805
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	517,122	511,328
土地	1,310,379	1,310,379
その他（純額）	37,009	30,758
有形固定資産合計	1,864,511	1,852,467
無形固定資産	77,356	70,118
投資その他の資産		
前払年金費用	103,120	104,508
その他	296,100	318,883
貸倒引当金	△4,346	△4,392
投資その他の資産合計	394,875	418,999
固定資産合計	2,336,743	2,341,585
資産合計	4,424,744	4,803,390
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	395,612	526,685
短期借入金	830,000	710,000
1年内返済予定の長期借入金	180,300	218,983
未払法人税等	32,801	99,347
賞与引当金	122,220	179,220
返品引当金	9,557	7,864
その他	344,772	392,077
流動負債合計	1,915,263	2,134,178
固定負債		
長期借入金	330,640	385,112
退職給付引当金	154,297	149,947
株式給付引当金	22,224	24,366
資産除去債務	4,758	4,785
長期未払金	178,120	178,120
その他	23,223	20,836
固定負債合計	713,263	763,167
負債合計	2,628,526	2,897,345

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	681,012	681,012
資本剰余金	424,177	435,282
利益剰余金	1,653,898	1,694,478
自己株式	△960,331	△906,746
株主資本合計	1,798,756	1,904,027
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,538	△1,960
評価・換算差額等合計	△2,538	△1,960
新株予約権	—	3,978
純資産合計	1,796,218	1,906,044
負債純資産合計	4,424,744	4,803,390

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	2,414,143	2,990,881
売上原価	715,754	1,005,066
売上総利益	1,698,388	1,985,815
販売費及び一般管理費	1,774,134	1,856,438
営業利益又は営業損失(△)	△75,745	129,376
営業外収益		
受取利息	55	20
受取配当金	507	523
受取家賃	6,233	6,158
その他	1,438	3,724
営業外収益合計	8,235	10,427
営業外費用		
支払利息	2,257	2,252
新株予約権発行費	—	3,473
その他	0	0
営業外費用合計	2,257	5,726
経常利益又は経常損失(△)	△69,767	134,077
特別損失		
固定資産除売却損	434	143
減損損失	—	8,823
特別損失合計	434	8,966
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△70,202	125,111
法人税、住民税及び事業税	19,403	84,374
法人税等調整額	1,753	△21,692
法人税等合計	21,156	62,682
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△91,359	62,428

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△70,202	125,111
減価償却費	43,177	39,098
減損損失	—	8,823
固定資産処分損益(△は益)	434	143
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△64	2,947
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△1	△4,349
株式給付引当金の増減額(△は減少)	2,204	2,141
賞与引当金の増減額(△は減少)	△460	57,000
受取利息及び受取配当金	△562	△544
支払利息	2,257	2,252
新株予約権発行費	—	3,473
売上債権の増減額(△は増加)	△11,188	△249,721
たな卸資産の増減額(△は増加)	△34,457	14,936
仕入債務の増減額(△は減少)	93,216	131,073
未払費用の増減額(△は減少)	△35,342	△14,568
その他	△42,641	40,306
小計	△53,631	158,123
利息及び配当金の受取額	550	531
利息の支払額	△2,257	△2,252
役員退職慰労金の支払額	△54,600	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△25,091	△21,136
営業活動によるキャッシュ・フロー	△135,030	135,266
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△83,540	△16,805
定期預金の払戻による収入	79,940	13,200
有形固定資産の取得による支出	△10,448	△19,124
無形固定資産の取得による支出	△356	—
貸付金の回収による収入	1,549	1,541
保険積立金の積立による支出	△20,424	△557
その他	1,017	△1,531
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,261	△23,277
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△180,000	△120,000
長期借入れによる収入	400,000	200,000
長期借入金の返済による支出	△105,101	△106,845
リース債務の返済による支出	△20,337	△19,317
自己株式の取得による支出	△46	△110
自己株式の売却による収入	7,006	3,737
新株予約権の行使による自己株式の処分による収入	—	60,421
新株予約権の発行による収入	—	4,620
新株予約権の発行による支出	—	△3,473
配当金の支払額	△21,722	△21,725
財務活動によるキャッシュ・フロー	79,799	△2,692
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△87,493	109,297
現金及び現金同等物の期首残高	515,955	450,469
現金及び現金同等物の四半期末残高	428,462	559,766

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症(以下、本感染症)の影響に関して、当社は現時点では、厳重な対策を実施した上で事業活動を継続しており、平常時と同水準の稼働率を維持しております。本感染症は、経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、今後の広がり方や収束時期等を正確に予想することは困難ではあるものの、2021年3月期中に概ね収束し、収束後に経済も徐々に回復していくと仮定しております。このような仮定のもと、繰延税金資産の回収可能性や固定資産の減損などの会計上の見積りを行っておりますが、本感染症の当社の会計上の見積りに与える影響は軽微であります。ただし、事業を展開している地域や営業所において感染者が発生し営業継続に支障をきたした場合、また、取引先において感染症の影響に伴い人的・物的・財務的要因により弊害が生じ、安定的な商品供給や仕入価格に変動が発生した場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	四半期損益計算書計上額 (注) 2
	家庭医薬品等販売事業		売水事業部門	計		
	小売部門	卸売部門				
売上高						
外部顧客への売上高	1,842,363	265,303	304,710	2,412,377	1,766	2,414,143
計	1,842,363	265,303	304,710	2,412,377	1,766	2,414,143
セグメント利益 又は損失(△)	△95,920	3,758	16,417	△75,745	—	△75,745

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自2020年4月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額(注) 3
	家庭医薬品等販売事業		売水 事業部門	計				
	小売部門	卸売部門						
売上高								
外部顧客への売上高	2,029,028	578,143	381,836	2,989,008	1,872	2,990,881	—	
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	20,291	20,291	—	20,291	△20,291	
計	2,029,028	578,143	402,128	3,009,300	1,872	3,011,173	△20,291	
セグメント利益又は損 失(△)	△36,155	110,541	54,990	129,376	—	129,376	—	

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. 調整額はセグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期累計期間において、家庭医薬品等販売事業(小売部門)の営業所(1営業所)の売却決定に伴い、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は8,823千円であります。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。